
青春は人の数だけ（二次創作 作品多）

伽耶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青春は人の数だけ（二次創作 作品多）

【Nコード】

N2569Z

【作者名】

伽耶

【あらすじ】

FORTUNE ARTERIALを軸にした多重クロスオーバーISSです。

多作品のキャラクターと一緒に学園生活を送ります。

主人公はオリジナル

ヒロインは250歳

⋮
⋮
⋮

1話 スタート&一目惚れ? (前書き)

誰か見てくれると嬉しいです

初めまして 伽耶 と申します

女ではありません男です

好きなキャラクターの名前を使いました。

紛らわしくてすみません…

このような素晴らしいサイトに出会えて感激です

登場させる作品は カードファイト!! ヴァンガード FORT

UNE ARTERIAL 仮面ライダーシリーズ ゼロの使い魔

僕は友達が少ない Angel Beats! デモンベイン

俺の妹がこんなに可愛いわけがない バカとテストと召喚獣

まどか マギカ ハヤテのごとく 遊戯王シリーズ 宙のまにまに

KISSxSISS CLANNAD TOLover 妹だけ

ど愛さえあれば関係ないよね 生徒会役員共 とらドラ アマガミ

他多数を予定しています

全作品を読破済みではありますが、曖昧な部分や不明な部分が出てくると思っています

教師陣や街の住人だけに明記していない作品のキャラクターなどを起用するかもしれませんが、キャラは保証できません…

同じような作品を書いておられる方には二番煎じ三番煎じの作風になりますかどうかご容赦ください

話の筋は大体FORTUNE ARTERIALになります

かなり自己満足な作品になっているかもしれませんが更新は遅いですがよろしく願います

1話 スタート&一目惚れ？

ガタン ゴトン

ガタン ゴトン

電車で揺られ間もなく2時間になるだろうか、俺こと御上 卓真は読書にも飽きてきていつの間にか本州と春島を繋ぐ長い連絡橋の外に広がる海原を眺めていた。

春休みの真っ只中の電車で混雑するかと予想していたが意外に電車内は空いており、俺と同じくらいの年齢の人達がぼつんぼつんと思いの思いの座席に座っていた。

座席の上にある荷物置きに置いてある荷物の大きさを見る辺り全員が俺と同じ目的で電車に乗っているのだろう…

電車の進行方向前方に見えてきた島、春島。

本州から連絡橋片道30分を挟んだ先にある瀬戸内海に浮かぶかなり大きい島

人口は1万人程の島で、全国でも有名な巨人マンモス校？春島学園？がある。

春島にある学園だから春島学園なんてかなり安直な名前だが評判は良く

小学、中学、高校のエスカレーター式の学園で、敷地は島の2分の1にも渡り学園内には寮も完備されており、本州から呼び寄せた一流シエフが勤務する大食堂もある。部活動も幅広く、王道の野球部を始め、果ては温泉部なるものも存在するらしい。

校風は生徒の自主制を重んじる校風で部活動もやりたい部があった

ら自己申告すれば大抵は認可されるらしい。
学園祭なども華やかで開催する場合は小中高全てまとめて行つらしい。

そんな為、この学園に受験する者は全国でもかなり多く倍率は毎年悲惨な事になるのだが、なんとかそれをパスして俺はここにいる。

『本日はご乗車頂き、ありがとうございます。終点春島へ春島へお降りの際は忘れものに充分ご注意ください。春島へ両側の扉が開きます。本日はご乗車ありがとうございました』

物思いに耽っている間に着いたみたいだ。

俺は横に置いてあるボストンバックを下げ、扉に向かう。

扉の前にはすでに何人か人がいた。

扉が開き、電車から降りる。

改札を出て、少し丘になった所に見える学園を見て一人ごちる。

「結構遠いな…」

そのまま上を向く。

快晴の青空。

これから始まる新しい日々に期待を抱きながら、まずは重い荷物を持ちながら学園へと歩みを進めた。

駅から1キロほどは都会並みに建物があり想像以上でビックリした。事前に調べていた自然と都会がいい感じに融合した感じが出ていた。

等間隔で植えられた木々のアーケード、端には有名な企業の支店やコンビニ、カフェ、銀行などがあり、学園だけではない人々の暮らしが垣間見えた。

駅前アーケードを抜けるとこれまた生活感の溢れる商店街があった。

駅前アーケードが都会的な様相ならこの商店街は庶民的な様相だ。

並べてある物を見ながら歩いていると、八百屋のおじちゃんが話しかけてきた。

「おっ？新入生か？」

「あ、はい。道ってここであってます？」

「おう。このまま真っ直ぐ行けば学校だ。そうか？もうそんな時期になるんだな？」

「ここってすごく良いところですね！俺こっぴついう街大好きなんですよー！」

「おっ？そうかそうか！それならなによりだ！俺も長い事ここに住んでるが飽きないな。毎年色んな奴に会えるし、街も活気があつていいいな！」

「みたいですね…みんな活き活きしてます。」

「だろ？ここの島の住人はみんなこの島が好きさ。…よしっこいつかじってけ！」

と八百屋のおじちゃんはキュウリを渡してくる。

「おお…！ありがとうございます…！」

野菜は好きな方なのですぐにかじる。

「おっ！いい食いつぶりだな！じゃあまた来いよ！学校頑張つてな！」

そうして八百屋から離れ歩き出す。

キュウリをかじりながら歩いて10分で春島学園に到着した。

近くで見ると予想以上にバカでかく、島の2分の1は凄いなど改めて実感した。

とりあえずボケっと突っ立っていても始まらないので寮に向かう事にした。

前方に見える寮もこれまたバカでかく、高級マンションが何棟も立っているようだった。

寮に向かって歩いていると前方から一人の少女が歩いてきた。以前、中学で一目惚れをしたという友人がいた。そして、俺はそんな友人をアホだなあと思ったが多分今の俺は世界の誰よりもアホな顔をして前方から歩いてくる少女に目を奪われているのだろう。

腰まで届く美しい金色の髪に正反対の印象を与える黒い着物。美しく整った顔に白い肌。

少女が気付いたようにこちらに瞳を向ける。その瞳は真紅。身体は小さいがか弱そうな印象はみられない。

彼女との距離が縮まるに連れ

カラン コロン

カラン コロン

という履き物の音が聞こえてくる。

俺は動けず、立ち尽くしたまま。

そんな俺の前で彼女は立ち止まる。

彼女の赤い瞳に見つめられる。

「フツッ…」

美しく、妖艶に微笑みかけた彼女は俺の横を通り過ぎる。

これを一目惚れと呼ばずしてなんと呼ぼうか。

俺はすこしの間動けなかった。

あの後5分ほどボーっとした後急に我にかえた。

半ば意識が飛んでいたみたいだ。

後ろを向くが誰もいない。

まあ当然だ。

俺は気を取り直して歩き出した。

すぐに寮のゲートらしい建物に着いた。

受付の人に郵便でもらった合格通知と生徒身分証を見せる。
確認が終わり、部屋のカギを貰う。

俺は一棟（一番手前だ）の303号室らしい。

エントランスでカギを差し込みオートロックを解除してから中へ2階に上がると少し広めの多目的広場、奥に左大浴場とかかれた木の板が打ち付けられておりその少し右側に談話室の扉がある。談話室の扉は両開きで結婚披露宴の会場にあるような物だ。どうやら2階部分は全て共有スペースになっているらしい

階段で3階に上がると6部屋程横並びであり。

俺はそのうちの303号室にカギを差し込み入った。

部屋の中はとてもキレイで快適な一人暮らしを再現したような感じになっている。

部屋には個人用の風呂もあり、冷蔵庫も完備、エアコンも備え付けてあった

とりあえず荷物を置き寮内を探検する事にした。

1話 スタート&一目惚れ？（後書き）

後に書くこともさほどありませんが言うことがあるとすれば駄文を
読んで頂き誠にありがとうございます。

これぐらいですね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2569z/>

青春は人の数だけ（二次創作 作品多）

2011年12月9日02時12分発行